

ロツチトツプ 強さの秘密

-3-

世界シェア7割

工作機械に欠かせない「位置決めスイッチ」。全自動で動くドリルや力ツターがどこから動き出すかを決めるこの装置を、メトロール（東京都立川市）は世界で初めて考案した。300万回使っても1千分の1ミリの精度が狂ってしまわず、かすれない精度と価格の安さを武器に、今も7割の世界シェアを持つ。「自動操縦でない昔の機械に取り付け、その上に

飛行機なら乗客が携帯電話で話していても大丈夫でしょ」。松橋卓司社長は自社のスイッチの強みをこう表現する。全自動の工作機械は巨大な携帯電話のようなもの。電磁波はもちろん熱も発する。磁力や光のセンサーで測る製品では使えな

「位置決めスイッチ」のメトロール

工作機械用、300万回使い誤差1000分の1ミリの

【会社概要】

- △創業 1976年
- △事業内容 位置決めスイッチ製造
- △売上高 12億円 (2011年1月期見通し)



機械式の位置決めスイッチは、女性のパート社員でも簡単に組み立てられる（東京都立川市）

工程を工夫、安さと両立

ドリルなどを置けば始動の位置を決められる。電磁波を受けても狂わないし切削油をかぶっても大丈夫。価格も競合の10分

メーカーはほかにない。だが製造現場で製品を組み立てているのは職人ではなく女性のパート社員たち。難しい工程は特殊な工具をあてがい、すき間に樹脂を充てんしたり、部品を差し込んだりしていき、工具の使い方さえ覚えれば実は誰でも作れるという。精密な製

の1だ。約30年前に最初の製品を安く大量に作るこの仕組みがメトロールの強さの源泉だ。

に代わり、中国のEMS（電子機器の受託製造サービス）からの受注が急増。工作機械を自社で製造するEMSが増え、重

金融危機後に失速した日本の機械メーカーが、3年後には今期の売上高見通しを越す14億円を中国で稼ぐという。ものづくりの新たな担い手を支え続けることで次の成長に結びつける。

要な部品や付属の装置を社外から調達し始めた。メトロールの今期の売上高は前期の2倍の12億円に増える見通しで、その3割が中国向けだ。

目線は中国に

松橋社長の目線も中国に向く。年初には上海に製品の検査や修理の拠点を設けた。組み立ての現